（別紙4（2））

事業所名　老人グループホーム　けやき

作成日：　平成　24年　7月　31日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	全職員で、身体拘束となる具体的行為について再度確認・理解を深め、個々の事例検討や評価を充実させていく。	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為や身体拘束による弊害等について、再度確認し理解を深めていき、身体拘束のないケアに取り組んでいく。	①事業所内で行う処遇会議等で、定期的に身体拘束についての勉強会を行う。 ②外部の研修には職員が交替で出席し、事業所内に持ち帰り報告、全職員が同じように理解できるよう努める。 ③個々のサービス内容について再度確認し、適切なケアを提供、評価しながら必要に応じて見直しを行う。	1年
2	20	入居者の馴染みの人や場の関係について、支援内容を記録する他、日頃の生活の中で情報収集し、書類に記載することで、個々に応じたケアを支援していく。	入居者や家族とコミニケーションや情報交換を図り、必要とする援助内容を定期的に見直し、適切なサービス内容をプランに反映させ提供していく。	①入居者とコミニケーションを図り、望むこと（人や物、場等）を引き出せるよう、日常の中で寄り添い耳を傾ける。 ②職員は電話や面会等において、努めて家族と会話し、家族の考えや思い等を聞きながら、日頃から協力をいただき、家族と施設で共に支える体制を取っていく。 ③書類や記録を見直し、「気づき」や「発見」を記入する欄をもうけ記入し、必要に応じ可能であればプランに反映させる。	1年
3	35	消防署の助言を踏まえて、あらゆる想定（地震等）で自主訓練に取り組んでいく。	消防訓練だけでなく、地震等の災害に備えた訓練も行っていく。	①事業所内で毎月行っている自主避難訓練に、地震を想定した訓練も定期的に入れていく。 ②社協で行っている炊き出しの支援について確認し、可能であれば利用する方向で検討する。 ③消防署立ち会いでの訓練（年2回）の助言を踏まえ、自主避難訓練に生かし、迅速且つ安全に避難誘導する。	1年
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。